オール島根外科専門研修プログラム

1.　オール島根外科専門研修プログラムについて

オール島根外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です。

1）専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
2）専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
3）上記に関する知識･技能･態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
4）外科専門医の育成を通して国民の健康･福祉に貢献すること
5）外科領域全般からサブスペシャルティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、救急、Acute Care Surgery）またはそれに準じた外科関連領域（乳腺や内分泌領域）の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

2.　オール島根外科専門研修プログラムの施設群

島根大学医学部附属病院と連携施設（17施設）により専門研修施設群を構成します。
本専門研修施設群では50名の専門研修指導医が専攻医を指導します。

専門研修基幹施設

名称	都道府県	1:消化器外科 2:心臓血管外科 3:呼吸器外科 4:小児外科 5:乳腺内分泌外科 6: その他（救急含む）	1.　統括責任者名 2.　統括副責任者名
島根大学医学部附属病院	島根県	1.2.3.4.5.6	1. 田島　義証 2. 織田　禎二 渡部　広明

専門研修連携施設

No.				連携施設担当者
1	松江記念病院	島根県	1.5.6	舟塚　雅英
2	松江市立病院	島根県	1.3.5.6	若月　俊郎
3	松江生協病院	島根県	1.3.5.6	白石　美栄
4	松江赤十字病院	島根県	1.2.5	吉岡　喬史
5	雲南市立病院	島根県	1.6	勝部　琢治
6	町立奥出雲病院	島根県	1	鈴木　賢二
7	出雲市立総合医療センター	島根県	1.5.6	杉山　章

8	出雲徳洲会病院	島根県	1	田原　英樹
9	島根県立中央病院	島根県	1.2.3.4.5.6	金澤　旭宣
10	大田市立病院	島根県	1.5.6	坂本　貴子
11	国立病院機構浜田医療センター	島根県	1.2.3.4.5.6	栗栖　泰郎
12	益田赤十字病院	島根県	1.3.4.5.6	塩田　摂成
13	益田地域医療センター医師会病院	島根県	1.4	椋　健朗
14	隠岐広域連合立隠岐病院	島根県	1.4.6	松尾　進
15	佐世保市総合医療センター	長崎県	1.2.3.5	角田　順久
16	長崎医療センター	長崎県	1.2.3.4.5.6	黒木　保
17	静岡県立こども病院	静岡県	2.4	猪飼　秋夫

- 島根県内の専門研修施設と所属医療圏

  松江医療圏:　松江記念病院、松江市立病院、松江生協病院、松江赤十字病院
  雲南医療圏:　雲南市立病院、町立奥出雲病院
  出雲医療圏:　出雲市立総合医療センター、出雲徳洲会病院、島根県立中央病院、島根大学医学部附属病院
  大田医療圏:　大田市立病院
  浜田医療圏:　国立病院機構浜田医療センター
  益田医療圏:　益田地域医療センター医師会病院、益田赤十字病院
  隠岐医療圏:　隠岐広域連合立隠岐病院

- 島根県外の専門研修施設と所属医療圏

  佐世保医療圏:佐世保市総合医療センター
  県央医療圏:　長崎医療センター
  静岡医療圏:　静岡県立こども病院

3.　専攻医の受け入れ数について(外科専門研修プログラム整備基準 5.5参照)

本専門研修施設群の3年間 NCD 登録数は 13,320 例で、専門研修指導医は50名のため、本年度の募集専攻医数は 10 名です。

4.　専門研修について

1)外科専門医は初期臨床研修修了後、3年(以上)の専門研修で育成されます。

- 3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6カ月以上の研修を行います。なお、複数の連携施設で研修を行う場合、ひとつの連携施設での研修期間は最短でも3カ月とします。
- 専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度 (コアコンピテンシー)と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。

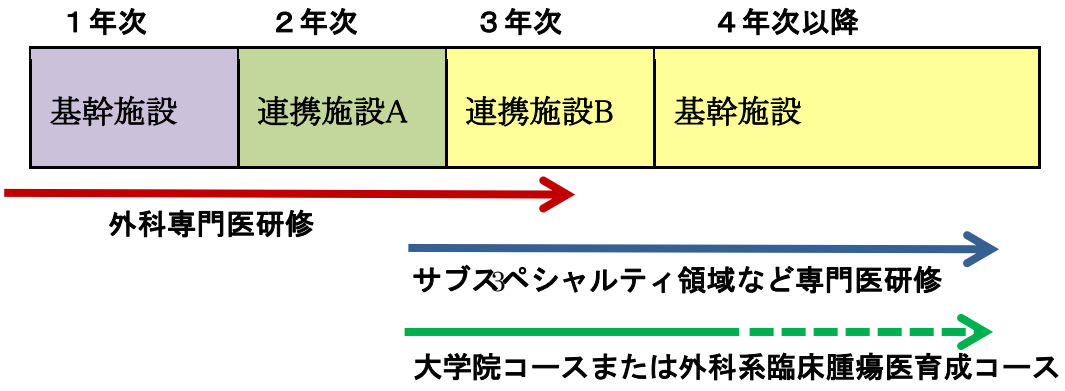
- 専門研修期間中に大学院へ進むことも可能です。大学院コースを選択して臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであればその期間は専門研修期間として扱われます。
- サブスペシャルティ領域によっては外科専門研修を修了し、外科専門医資格を習得した年の年度初めに遡ってサブスペシャルティ領域専門研修の開始と認める場合があります。サブスペシャルティ領域連動型については現時点では未定です（2018年5月）。
- 研修プログラムの修了判定には規定の経験症例数が必要です。（専攻医研修マニュアル-経験目標2-を参照）
- 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができます。（外科専門研修プログラム整備基準2.3.3参照）

2）年次毎の専門研修計画

- 専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照してください。
- 専門研修 1年目では、原則として基幹施設で、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的に開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learning や書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修 2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会、研究会への参加などを通して専門知識技能の習得を図ります。
- 専門研修 3年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャルティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます。

（具体例）

下図にオール島根外科専門研修プログラムの 1 例を示します。専門研修 1 年目は、基幹施設、専門研修 2･3 年目は連携施設での研修です。3 年間の研修期間のうち、少なくとも2つ以上の異なる医療圏で専門研修を行います。3 年目の研修は 2 年次終了時の達成度合を勘案して研修内容を検討します。



オール島根外科専門研修プログラムでの3年間の施設群ローテートにおける研修内容と予想される経験症例数を下記に示します。どのコースであっても内容と経験症例数に偏り、不公平がないように十分配慮します。

オール島根外科専門研修プログラムの研修期間は3年間としていますが、習得が不十分な場合は習得できるまで期間を延長することになります(未修了)。一方で、カリキュラムの技能を習得したと認められた専攻医には、積極的にサブスペシャルティ領域専門医取得に向けた技能教育を開始し、また大学院進学希望者には、臨床研修と平行して研究を開始することができます。

- 専門研修 1年目
  原則として島根大学医学部附属病院で研修を行います。
  一般外科/麻酔/Acute Care Surgery/病理/消化器/心・血管/呼吸器/小児/乳腺・内分泌
  経験症例 150例以上　　(術者 20例以上)
  経験症例数に偏り、不公平がないように十分配慮します。希望に応じて、心・血管/呼吸器/小児等の手術を優先的に研修することができます。
- 専門研修2年目
  連携施設群のいずれかに所属し研修を行います。
  一般外科/麻酔/Acute Care Surgery/病理/消化器/心・血管/呼吸器/小児/乳腺・内分泌
  経験症例 300例以上/2年　　(術者 80例以上/2年)
- 専門研修3年目
  連携施設群のいずれか、または島根大学医学部附属病院に所属し研修を行います。
  一般外科/麻酔/Acute Care Surgery/病理/消化器/心・血管/呼吸器/小児/乳腺・内分泌
  経験症例 350例以上/3年　　(術者 120例以上/3年)
  不足症例に関して各領域をローテートします。

(サブスペシャルティ領域などの専門医連動コース)

島根大学医学部附属病院などでサブスペシャルティ領域(消化器外科, 心臓・血管外科, 呼吸器外科, 小児外科)またはそれに準じた外科関連領域(乳腺や内分泌領域)の専門研修を開始します。将来専攻するサブスペシャルティ領域または外科関連領域の意思決定が明らかな専攻医は、外科専門研修コースの上記必要症例を満たしたうえで、希望サブスペシャルティ領域の症例を多く経験することができます。

(大学院コース)

大学院に進学し、臨床研究または学術研究・基礎研究を開始します。ただし、研究専任となる基礎研究は6カ月以内とします(外科専門研修プログラム整備 基準 5.11)。

3)研修の週間計画および年間計画

基幹施設
島根大学医学部附属病院 消化器・総合外科例

		月	火	水	木	金	土	日
7:45-8:15	外科合同抄読会							
8:15-9:15	朝カンファレンス							
9:30-	病棟業務							
9:30-	外来							
9:30-	手術							
14:00-16:30	総回診							
17:30-	放射線診断合同カンファレンス(隔週)							
17:30-	内科外科合同カンファレンス(隔週)							
18:30-	病理合同カンファレンス(隔週)							
17:30-18:30	医局全体ミーティング(6ヶ月毎)							

緑色:定時　黄色:随時

基幹施設
島根大学医学部附属病院 循環器・呼吸器外科例

		月	火	水	木	金	土	日
7:30-8:30	カンファレンス/ICU・病棟回診							
7:30-7:45	カンファレンス							
7:45-8:30	外科合同抄読会							
8:30-9:00	教授回診							
8:30-9:00	ICU 回診							
8:30-12:00	外来診療							
8:30-17:00	ICU・病棟診療							
8:30-17:00	手術							
8:30-17:00	症例カンファレンス							
16:00-17:00	抄読会							
17:00-17:30	病棟回診							
17:00-18:00	手術ビデオカンファレンス							
17:30-	呼吸器内科合同カンファレンス							
18:00-	循環器内科合同カンファレンス							
18:00-	呼吸器・他科合同カンファレンス							

緑色:定時

連携施設

出雲徳洲会病院例

	月	火	水	木	金	土	日
8:30-9:00　医局会							
9:00-12:00　外来(外科)							
9:00-12:00　外来(総合診療)(隔週)							
9:00-12:00　ER							
9:00-12:00　病棟							
9:00-12:00　上部消化管内視鏡							
13:30—17:00　手術							
13:30—17:00　下部消化管内視鏡							
13:30—17:00　ER							
16:30—17:00　症例検討、合併症カンファレンス							
17:00—19:00　夕方診療							
17:00—8:30　当直(月 2-4 回)							

緑色:定時　黄色:随時

連携施設

大田市立病院例

	月	火	水	木	金	土	日
7:30-8:00　総合診療抄読会							
8:00-8:30　病棟回診							
8:30-12:00　外来診療							
9:00-　病棟業務							
9:00-　手術(水・木は 13:00-)							
12:00-13:00　外科勉強会							
13:00-14:00　外科カンファレンス							
17:15-18:00　医局ミーティング							

緑色:定時

研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール

月	全体行事予定
4	・外科専門研修開始。専攻医および指導医に提出用資料の配布 （島根大学医学部附属病院卒後臨床研修センターホームページよりダウンロード） ・日本外科学会参加（発表）
5	・研修修了者：専門医認定審査申請・提出
8	・研修修了者：専門医認定審査（筆記試験）
11	・臨床外科学会参加（発表）
2	・専攻医：研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙の作成（年次報告） （書類は翌月に提出） ・専攻医：研修プログラム評価報告用紙の作成（書類は翌月に提出） ・指導医・指導責任者：指導実績報告用紙の作成（書類は翌月に提出）
3	・その年度の研修終了 ・専攻医：その年度の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を提出 ・指導医・指導責任者：前年度の指導実績報告用紙の提出 ・研修プログラム管理委員会開催

5.　専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

- 専攻医研修マニュアルの到達目標1（専門知識）、到達目標2（専門技能）、到達目標3（学問的姿勢）、到達目標4（倫理性、社会性など）を参照してください。

6.　各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得

（専攻医研修マニュアル−到達目標3−参照）

- 基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。
- 放射線診断・病理合同カンファレンス:手術症例を中心に放射線診断部とともに術前画像診断を検討し、切除検体の病理診断と対比します。
- Cancer Board：複数の臓器に広がる進行・再発例や、重症の内科合併症を有する症例、非常に稀で標準治療がない症例などの治療方針決定について、 内科など関連診療科、病理部、放射線科、緩和、看護スタッフなどによる合同カンファレンスを行います。
- 基幹施設と連携施設による症例検討会：各施設の専攻医や若手専門医による研修発表会を毎年１月に大学内の施設を用いて行い、発表内容、スライド資料の良否、発表態度などについて指導的立場の医師や同僚・後輩から質問を受けて討論を行います。
- 各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。
- 大動物を用いたトレーニング設備や教育 DVD などを用いて積極的に手術手技を学

びます。

- 日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム）、 e-learning、その他各種研修セミナーや各病院内で実施されるこれらの講習会などで下記の事柄を学びます。
  - ☆ 標準的医療および今後期待される先進的医療
  - ☆ 医療倫理、医療安全、院内感染対策

7. 学問的姿勢について

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけます。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらにえられた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。(専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照)

- 日本外科学会定期学術集会に 1回以上参加
- 指定の学術集会や学術出版物に筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

なお、将来専攻する予定のサブスペシャルティ領域の学術集会への参加も各領域の要件を見据えながら計画的に行う必要があります。

8. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて

（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

1）医師としての責務を自律的に果たし信頼されること(プロフェッショナリズム)

- 医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。

2）患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること

- 患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとに的確な医療を目指します。
- 医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。

3）臨床の現場から学ぶ態度を習得すること

- 臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。

4）チーム医療の一員として行動すること

- チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。
- 的確なコンサルテーションを実践します。
- 他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。

5）後輩医師に教育・指導を行うこと

- 自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医

療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。

6）保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること

- 健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践します。
- 医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。
- 診断書、証明書が記載できます。

9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

1）施設群による研修

本研修プログラムでは島根大学医学部附属病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成しています。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。これは、専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。大学だけの研修では稀な疾患や治療困難例が中心となりcommon diseases の経験が不十分となります。この点、地域の連携病院で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得します。このような理由から施設群内の複数の施設で研修を行うことが非常に大切です。本研修プログラムのどのコースに進んでも指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮します。

施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、オール島根外科専門研修プログラム管理委員会が決定します。

2）地域医療の経験（専攻医研修マニュアル−経験目標 3参照）

地域の連携病院では責任を持って多くの症例を経験することができます。また、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

- 本研修プログラムの連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院、地域中小病院）が入っています。そのため、連携施設での研修中に以下の地域医療（過疎地域も含む）の研修が可能です。
- 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。
- 消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。

10. 専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル VI参照）

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。

専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。専攻医研修マニュアルVIを参照してください。

11.　専門研修プログラム管理委員会について

（外科専門研修プログラム整備基準 6.4参照）

基幹施設である島根大学医学部附属病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。オール島根外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、副委員長、プログラム管理者、事務局代表者、外科の6つの専門分野（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺・内分泌外科、Acute Care Surgery）の研修指導責任者、島根大学医学部附属病院卒後臨床研修センターに所属する職員、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わります。専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

12.　専攻医の就業環境について

1）専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。

2）専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルスに配慮します。

3）専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規定に従います。

13.　修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表および 3年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の 3 月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

14.　外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

専攻医研修マニュアル VIII を参照してください。

15.　専門研修実績記録システム、マニュアル等について

研修実績および評価の記録

外科学会のホームページにある書式（専攻医研修マニュアル、研修目標達成 度評価報告用紙，専攻医研修実績記録，専攻医指導評価記録）を用いて、専攻医は研修実績（NCD登録）を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行います。

島根大学医学部附属病院卒後臨床研修センターにて、専攻医の研修履歴（研修施設、

期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

◉専攻医研修マニュアル

別紙「専攻医研修マニュアル」参照。

◉指導者マニュアル

別紙「指導医マニュアル」参照。

◉専攻医研修実績記録フォーマット

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はNCDに登録します。

◉指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録します。

16.　専攻医の採用と修了

採用方法

オール島根外科専門研修プログラム管理委員会は、毎年7月から説明会等を行い、 外科専攻医を募集します。プログラムへの応募者は、9月 30日までに研修プログラム責任者宛に所定の形式の『オール島根外科専門研修プログラム応募申請書』 および履歴書を提出してください。申請書は(1) 島根大学医学部附属病院卒後臨床研修センターの website (http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/resident/)よりダウンロード、(2)電話で問い合わせ(0853-20-2714, 2715)、(3) e-mail で問い合わせ(s-kouki@med.shimane-u.ac.jp)のいずれの方法でも入手可能です。原則として 10月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については 12月のオール島根外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の 5 月 31 日までに以下の専攻医氏名報告書を、日本外科学会事務局 (senmoni@jssoc.or.jp)および、外科研修委員(senmoni@isis.ocn.ne.jp)に提出します。

・専攻医の氏名と医籍登録番号、日本外科学会会員番号、専攻医の卒業年度

・専攻医の履歴書(様式 15-3 号)

・専攻医の初期研修修了証

修了要件

専攻医研修マニュアル参照

日本専門医機構が認定した外科専門研修施設群において通算 3年(以上)の臨床研修を行い外科専門研修プログラムの一般目標，到達(経験)目標を修得または経験した者。

各連携施設の特徴

1.　　松江記念病院

医療法人　社団創健会　松江記念病院は、島根県の県庁所在地、松江市の乃木地区（橋南）に、昭和 61 年 4 月、「ふれあいと健康をもとめて」を基本理念に、消化器内科・消化器外科を主軸として開院しました。現在は、消化器疾患、肛門疾患、乳腺疾患、肝・胆・膵疾患に加え、脳神経疾患、外科・整形外科疾患のリハビリテーション、小児科、婦人科、皮膚科外来の開設、近年では特に生活習慣病外来に力を入れた診療行為を行っています。また開院当初より各種の健康診断、人間ドックを実施し、医師、保健師による事後指導、健康相談等の産業保健活動等の予防医療部門にも力を入れています。入院診療に関して、当院では、松江圏域の医療体制の中で、急性期病院の後方支援病院・在宅復帰支援拠点病院として機能し、亜急性期および慢性期患者の受け入れや、在宅復帰に向けた療養対応および支援を中心に対応しています。また老老介護が多い地域でもあり、訪問看護ステーション、在宅支援事業所、通所リハビリテーション等の在宅療養支援部門ならびに関連施設として強化型老人保健施設を備えており、一貫した医療・福祉のサービスの提供を行っています。

当院での外科手術症例の特徴としては、まず、開院以来行っている消化器系の手術、特に近年は、後期高齢者に対する非侵襲的消化器系手術症例、また健診で指摘を受けた比較的若年層の消化器系悪性疾患症例に対するスタンダードな手術症例を経験できます。ただし、内視鏡手術関連の手術器材の都合で、高次病院へ紹介する場合もあります。また高齢者の入院や比較的長期的な療養対応を行うにあたり、小外科レベルの良性疾患に対し、低侵襲で合併症のない手術療法を行い、安定した療養対応が継続できるように術前術後の管理も含め、如何に集約的に工夫しているかを体験できる点が特徴です。

2.　　松江市立病院

松江市立病院は、昭和 23 年 4 月に病床数は 30 床で開設されました。理念は、市民への奉仕を第一とし、市民から愛され、信頼される病院を目指し、地域中核病院として、また自治体病院として市民ニーズに的確に応える医療を行うとともに、保健医療福祉の連携に努めることです。その後増改築を重ねながら、平成 17 年 8 月に松江市乃白町に新築移転しました。現在、病床数 470 床、27 診療科を有し 100 名を超える医師が勤務する山陰の中核病院のひとつです。検診センター、がんセンター、緩和ケア病棟や ICU などを設置し、日本医療評価機構の認定や、地域がん診療連携拠点病院（高度型）、臨床研修指定病院の指定を受けています。がんセンターでは、最新の放射線治療設備を整備し、山陰地方では初となるサイバーナイフの導入を行いました。昨年 11 月からロボット手術も開始しています。当院は、日本外科学会認定医修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設です。消化器外科では悪性疾患である食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆管がん、膵がんなどを中心に、良性疾患（胆石、ヘルニア、痔核など）、腹部救急疾患（胆のう炎、虫垂炎、腹膜炎、腸閉塞など）の治療を行っています。手術適応は消化器内科・放射線科・消化器外科・緩和ケア科などの専門医が週 2 回のカンファレンスを行った上で、患者の意向も参考にしながら決定します。現在、年間 400 例の手術を行い、手術の 6 割を腹腔鏡下手術で行っています。乳腺・内分泌・

胸部外科は乳腺外科、血管外科（主として末梢血管）、胸部外科（呼吸器）、内分泌外科（甲状腺、副甲状腺、副腎）を専門分野としています。乳癌学会指導医の医師が勤務しています。年間手術例は 268　例です。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士など多職種でチームを組み患者のケアに対応しています。主なチーム医療として、ICT（感染対策）、NST（栄養管理）、緩和ケアなどがあります。また、入院中から退院までの経過についてはクリニカルパスを活用し医療の標準化を行っています。前期、後期研修医など若手医師の教育にも力をいれ、幅広く症例を十分に経験していただき専門医をめざす体制を作っています。

3.　　松江生協病院

松江生協病院は 1960 年に 23 床の病院として開設して以来、地域とともに半世紀以上を歩み、まちの中の総合病院として発展してきました。現在病床数は 351 床となり、救急、急性期から回復期、慢性期までを担う高機能大規模ケアミックス医療を展開しています。介護・在宅を繋ぐ連携も強化し、手術のみをこなすのではなく、患者様とのコミュニケーションを大切にしながら、手術後の不安に対してもしっかりと相談に乗れるような「かかりつけ医」を目指しています。

外科は乳腺科を含め現在 6 名のスタッフで、5 名が島根大学、1 名は鳥取大学より派遣されており全員が外科学会専門医（内 2 名が指導医）を取得しています。

我々は手術の標準化のみならず、古くはこの地域ではじめて生体腎移植、腹腔鏡手術を施行し、最近では単孔式腹腔鏡手術、痔核治療の PPH、ALTA 療法や便失禁に対する仙骨神経刺激療法などを先駆けて導入しパイオニア精神を忘れず研鑽を積んでいます。

悪性疾患の治療に対しては個々の患者様の病状・全身状態を考慮し、癌の根治性と手術の安全性を多方面より検討し治療方針を決定しています。腹腔鏡下手術の適応も技術の進歩とともに拡大しており、術後の痛みや苦痛を軽減し早期回復への配慮も怠りません。

また良性疾患ではありますが「人知れず悩んでいる」直腸・肛門疾患の治療への専門性も高め、痔核、裂肛、痔瘻等の一般的な疾患のみならず、便失禁や排便障害に対する外科治療も行っています。

当院は、古くから島根大学より多くの研修医を受け入れてきた実績があります。これからの外科後期研修においては、専門領域にて分割された大病院では経験できない多岐にわたる疾患のなかで、外科医として患者様とともに、そして我々スタッフとともに「悩み」「決断し」「進化し」「喜び」「ときに悲しむ」過程を共有しながら、外科専門医へと成長していけるお手伝いができるものと思っています。

4.　　松江赤十字病院

当院は診療科 27、病床数 599 という山陰地方有数の規模を有し、医療圏は島根県東部を中心に県西部、隠岐に至る地域の基幹病院で、地域に根ざした医療を展開しております。主に急性期医療を担い、年間 4000 件以上の救急搬送（そのうち 60 件はヘリコプター搬送）を受け入れており（2018 年度実績）、急性期疾患の診療および緊急手術も数多くあります。

外科系診療科は消化器・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科があり、後期研修ではサブスペシャリティ領域を研修することも可能です。また当院は癌治療を担うがん診療連携拠点病院で、悪性疾患症例が豊富であり、外来化学療法センターを併設し、入院お

よび外来での化学療法の経験も可能です。放射線治療は放射線科と共同で行っております。消化器外科は年間 653 例（2014 年実績）の手術を行い、うち全身麻酔症例が 434 例、緊急手術が 151 例でした。また鏡視下手術が 159 例と近年増加傾向にあります。上下部消化管、肝胆膵などの悪性疾患を中心とした症例が豊富にあります。心臓血管外科では年間約 200 例の手術を行っています。人工心肺を用いた心大血管手術、心拍動下の冠動脈バイパス手術、大血管へのステントグラフト内挿術等様々な手術を実施しています。呼吸器外科は年間約 120 例でそのうち 8 割が鏡視下手術です。乳腺外科は年間約 100 例の手術を実施しており、形成外科と共同して乳房再建術も積極的に行っています。各科で毎週術前後症例や難治例などのカンファレンスを行い、抄読会もあります。また月 1 回開催されるキャンサーボードでは悪性疾患を治療する各診療科や病理診断科に加え、看護部、薬剤部、放射線部、理学療法部など院内の悪性疾患を扱う部署が一同に会して活発な討論を行っております。以上のように当院での外科専門医研修の特色は様々な診療科で幅広い知識の修得と技術の向上が図れることです。

5.　雲南市立病院

雲南市立病院で最も誇れるものは、施設や指導医や職員ではなく、ここに集う患者や地域住民です。当院は、地方の辺縁部医療過疎地域で病院を持たない中山間地に、当時の住民が中心となり「地域の幸せは良い病院づくりから」の理念の下 1948 年に誕生させた雲南共存病院を母体とし、2011 年から雲南市立病院として地域の医療を支えています。この歴史的背景から、医療従事者不足や厳しい経済環境にある現在でも、地元住民も病院職員と一丸となって病院を支え、地域医療を維持しています。病院支援の市民組織も多数併存します（がんばれ雲南病院市民の会、雲南市立病院ボランティアの会、雲南病院を支えよう市民の会など）。病院を大切に思ってくれる患者さんや組織の存在が医療教育面でも最大の自慢です。

中山間地に位置し、地域包括ケア病棟 43 床を含む 281 床の小規模病院ですが、島根大学などの支援の下、日々の診療、教育、研究に取り組んでいます。複数の併存疾患や複雑な生活環境を背景とした高齢患者が多く、教科書的・典型的な診療だけでなく、より総合的な医療アプローチが求められるため、従来から医学生や初期臨床研修医の地域医療実習・研修では、院内での地域医療活動の体験型修練だけでなく、院外での地域住民との接触体験を積極的に組み込み、地域の特殊性を理解し、地域の中での医療課題を抽出し、地域内で患者に最適な診療を考案できるようなプログラムを工夫してきました。

外科専門医プログラムに関しても、過去 8 年間で、地元患者 2,494 例(312 例/年)を外科専門医対象手術としてNCDに登録しています。消化器外科手術 1,381 例（173 例/年）、うち、日本消化器外科学会の高、中、低難度手術各 100 例(13 例/年)、357 例(45 例/年)、924 例(116 例/年)をはじめ、低難度の心臓血管外科 82 例(10 例/年）や呼吸器外科 131 例(16 例/年）、乳腺外科手術 41 例（5 例/年）、その他外傷への創処置や全身診療などの実績があり、消化器外科手術では高、中、低難度手術の各 83%、83%、78%を専攻医や専門医取得直後の若手医師に執刀してもらっています。複雑な併存病態や特殊な生理機能環境下にある高齢者への手術が中心で、術後合併症の予想や対応、事前説明、術式手控えの判断などに重点を置いた研修としています。また、医師人生の中での地方非都市部の辺縁医療過疎地域での医療活動も念頭に置き、外科専門医研修中も、排他的な専門性に特化しすぎない

よう、救急外来や一人当直業務では、専門家に振り分け難い外科対象外の症例へも積極的に関わり、医師としての総合的診療能力を維持してもらっています。

6.　　町立奥出雲病院

「消化器外科を中心としたがん・一般外科・外科系総合コース」

奥出雲病院はこんな病院

町立奥出雲病院のある奥出雲町は、人口およそ1万２千人で、松江市及び出雲市それぞれから車でおよそ50分の位置にあります。診療圏内に急性期病院は当院しかなく、地域医療の核となっているほか、町内の各診療所や地域の介護保険施設との交流や連携は盛んで、そのリーダー的役割も担っています。

医師が医師としての能力が十分発揮できるよう、診療の補助体制は充実しており、当院に来られる非常勤医師、研修医、地域医療実習の学生の方々は皆さん働きやすいと言われます。

研修の目的、方向性

消化器外科専門医・指導医、がん薬物療法専門医、ICD、麻酔科標榜医など幅広くかつ高度な知識と経験を持つ指導医の下で、消化器外科という核となる専門を高いレベルで学びながら、一般外科・臨床腫瘍学・院内感染管理・一般臨床・麻酔など総合診療の力を養います。

「小さい」ことのメリット

奥出雲病院には、病院規模が比較的小さいことによるメリットがあります。臨床科の垣根がほとんどない診療が可能で、それへの関わりも大勢の研修医の中の一人になるのではなく、「自分が主役」で診療に主体的に関わることができます。特にがん診療の分野には外科的観点からも内科的観点からも高い専門性を持って総合的に診療にあたることができます。

研修の環境

当院の研修では、指導医がマンツーマンで指導に当たります。当然ながら医学の分野では学ばなければならない事柄は多岐にわたるのですが、質問しやすい雰囲気で責任を持ってバックアップ致します。山間部の病院で、日常生活などに不安を感じる方もいらっしゃるかもしれません。あらゆる相談や、地域での生活の楽しみなどについてもアドバイスできる体制を作っています。充実した生活を送れることをお約束します。

7.　　出雲市立総合医療センター

当院は出雲市の東部に位置し、以前は平田市立病院の名称で地域の皆様に親しまれてきましたが、平成17年の出雲市・平田市外4町の合併を機に出雲市立総合医療センターと改名し、現在に至っています。平成23年より電子カルテ、PET-CT、健診センターが稼働し、翌年には新棟が完成して、開設60周年記念式典を行いました。平成29年2月より急性期の1病棟を地域包括ケア病棟に変換し、現在は、急性期病棟57床、地域包括ケア病棟50床、回復リハビリテーション病棟40床、療養型病棟52床の計199床となっており、ケアミックス型の病院です。診療科は16科で、常勤医師数は現在20名（令和2年4月現在）となっています。当直は各科のバックアップのもとに1名体制で行っており、内科・外科・整形外科から泌尿器科まで、広い範囲の領域を診療しています。

外科は島大消化器総合外科からの支援を得て、常勤2名体制で診療及び手術を行ってい

ます。外来では、さまざまな外傷処置やその他の外科的処置が経験できます。また、乳腺外来、下肢静脈瘤外来、肛門外来といった専門外来も開設しており、診断から治療まで一貫して行っています。また、化学療法室も備えており、各種がんの外来化学療法を認定看護師とともにチームを組んで行っています。

手術は外来小手術から鼠径ヘルニア、下肢静脈瘤、胆嚢や胃、大腸などの腹腔鏡下手術、開腹手術、乳腺、甲状腺など幅広く手掛けています。症例によっては、島大や他の関連施設と連携を取りながら、より専門性の高い手術も手掛けています。大病院ではなかなか経験できないいろいろな症例に接することができ、外科の基本を習得するのには非常に適した病院であると思っています。また、中小病院ならではの診療科間の垣根を越えた連携の中で、患者さんの生活に目を向けながら、病気を持った一人の人間としてとらえる能力を身につけることもできます。当院の地域における役割として、急性期・回復期・慢性期医療の提供、1次2次救急医療、高齢者の急性期医療の提供などを掲げていますが、平成31年3月からは、在宅医療の一環として、訪問診療を開始しております。今後は訪問看護を立ち上げ、今後、東部地域で供給不足が見込まれる在宅医療の充実に向けて、取り組んでいきたいと考えています。

このように、地域に密着した地域医療を体験することができますが、これをさらに推進させるためにも、外科医の役割は今後ますます大きなものとなってくると思われます。地域医療の中での外科が実感できる病院であると自負しております。ぜひ、当院での研修を職員一同、お待ちしております。

8.　出雲徳洲会病院

年間約 150 例の症例を執刀医として行ってもらいます。気管切開や胃瘻造設術、透析シャント造設、褥瘡の皮弁形成術といった小手術から、腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(TEP,TAPP),腹腔鏡下胆嚢摘出術、腹腔鏡下虫垂切除術、VATS などを初め、腹腔鏡下胃切除や大腸切除なども順次執刀してもらう予定です。それ以外でも地域病院らしく総合診療科の要素もあり、高齢者で長期療養の患者さんも総合的に関わっていく機会もあります。術後 10-20 年経過した患者さんがどのような状態にあるのか、また、どのような思いがあるのかといったことなど、大学や大病院ではわからないことが実際の患者さんから学ぶことができます。患者さんの将来まで考えた術式を選択できる思慮深い外科医になれると思います。外科の手術以外では上･下部消化管内視鏡も研修が可能ですし、透析管理なども研修可能です。

学会参加についてですが、年 4 回は発表なしでも可能です。発表を行う学会参加は無制限です。

業務は,手術は週 3 回程度、外来は週 2 回程度、ER 担当が 2-3 回/週、当直は 2 回/月と平均的で、当直の翌日は朝 9 時で勤務終了です。過重労働にならないように配慮しています。

また、徳洲会グループの特性を生かした経験もできます。希望があれば離島などの病院見学や実際の当直なども可能です。島根県の離島と違う体験をすることで視野が広がり、日本全体や世界全体を見据えたスケールの大きな外科医を育てるのに寄与できるのではないかと考えます。

当院の職員すべてが研修を歓迎しているため、スタッフは非常に協力的で大変働きやすいと思います。

9.　　島根県立中央病院

当院は、「県民の安心と職員の働きがいを追求し、患者と医療者が協働する医療の実践を通して、ゆたかな地域社会づくりに貢献する。」を基本理念とし、他の医療機関との連携を強化し、高度で専門的な医療の役割を担い、地域に期待される医療者の育成に努め、透明性の高い病院運営に心がけ、県民の皆様に信頼していただける病院を目指しています。当院の特色として、「高度で専門的な医療を担う県の基幹的病院」、「地域がん診療連携拠点病院」、「周産期母子医療センター」、「高度救命救急センター」、「ドクターヘリ」、「情報化による質の高い医療」があり、幅広く県民のニーズに応えるべく努力を重ねています。また、医師や看護師をはじめ様々な医療技術者の教育実習病院としての役目も担っており、多くの優秀な人材を世に送り出してまいりました。とりわけ医師の教育については、自治医科大学卒業生のみならず、広く臨床研修医を採用し教育してきた実績があります。外科専門教育に関しても、学会の専門医養成プログラムに準拠し、多くの外科専門医を養成してきました。新しい外科専門医制度にあたり、当院としても地域の基幹病院と密に連携したプログラムで、臨床現場に強い外科専門医の養成を目指していく覚悟です。幸い当院では、県の基幹病院として、救急患者のみならず様々な患者さんが疾患の偏りなく受診されるため、あらゆる症例を経験できるベースがあり、都市部の病院では得られないような多くの経験を積めることができると確信しています。消化器外科、乳腺科、心臓血管外科、呼吸器外科の専門医、指導医も多く在籍し、指導体制も充実しています。実際の手術も、内視鏡外科手術、低侵襲冠動脈バイパス術、ステントグラフト内挿術など、高齢者の多い島根県にあっては、安全性や根治性を確保しつつ、より低侵襲な術式を積極的に採用しています。外科専門医研修施設として理想的であると自負しています。

10.　　大田市立病院

大田市立病院は、世界遺産石見銀山や国立公園三瓶山など歴史と豊かな自然に囲まれた大田市にある、圏域人口約6万人の中核となる医療機関です。2011年より島根大学医学部のサテライト・キャンパスとして院内に大田総合医育成センターが設置され、大学の教員が常駐し積極的に総合診療医の育成に取り組んでいます。また2020年5月の新病院開院に向け、現在着々と準備を進めています。

当院外科は、地域の中核的病院としてcommon diseaseを中心とした症例が豊富で、幅広く学べる総合外科です。高齢者を中心とした多種多様な病態の患者さんへ急性期医療を提供し、一人ひとり地域完結型のオーダーメイド治療を提供しています。また、術後の管理から癌再発予防や癌治療も個々の患者さんに最適な治療を提供しています。1日平均患者数は入院約23名、外来約24名、手術件数は消化器外科を中心に年間220件程度です。また緊急手術が多いのも特徴で、より実践的な技術・知識の習得が可能であると考えます。中規模病院ながら、麻酔科・内科・放射線科など経験豊富なスタッフや設備が充実しており、大規模病院と大差ない治療を実施しています。MRI、CT、シンチグラフィーなどの迅速検査も可能です。ほとんどの症例について、診断～治療（手術・化学療法）～緩和まで一貫した経験が可能で、地域で完結する総合的医療の例を数多く学ぶことができます。

11.　国立病院機構　浜田医療センター

当院は，島根県西部の中核病院（がん診療連携拠点病院，地域災害拠点病院，島根DMAT指定病院，地域医療支援病院，臨床研修指定病院，その他の資格あり）である。病床数は一般病床361床（救命救急センター10床うちICU2床、緩和ケア病棟15床）、感染症病床4床の合計365床で、全28診療科（うち非常勤医師のみ6科）、常勤医師数58名の体制で，浜田医療圏10万人の健康を支えている．常勤病理医も在籍し，術中迅速病理検査や病理解剖が可能である。

外科専門医取得のためには，National Clinical Database（NCD）に登録可能な多くの手術症例を経験する必要がある。当院における2018年のNCD登録件数の概要は，消化器および腹部内臓441，乳腺44，呼吸器46，心臓および大血管48，末梢血管213，内分泌外科（甲状腺，副腎など）2，小児外科7，外科専攻医の経験症例とはならないNCD登録症例44，合計864，うち鏡視下（腹腔鏡または胸腔鏡下）手術265であった。

このような症例を通して高い診療能力を身につけるためには，しっかりとした指導医が必要であるが，当院には2020年4月時点で，外科専門医指導資格を有する常勤医師が6名在籍する。また，外科診療における治療手段は手術が中心ではあるが，多くの患者は様々な並存症を有し，合併症を発症することがあるため，それぞれの病態に応じた専門チームの関わりが必要である。当院には，2名の診療看護師の他、1名の特定看護師、11分野16名の日本看護協会認定看護師が在籍し、それぞれの専門分野のチーム医療の担い手として活躍し，外科診療にもチームとして積極的に関与している。このような体制により，幅広い視野に基づいた外科専門医取得のための研修が可能である。

その他，中央図書室が完備し，多くの書籍や医学雑誌を購入している。また，各科や複数科によるカンファレンスが定期的に開催され，治療方針が常に検討されている。

12.　益田赤十字病院

益田赤十字病院は、平成 28 年 1 月 4 日より新病院での診療を開始した。当院は、島根県益田市、鹿足郡、浜田市三隅町及び山口県萩市の東部を医療圏域とし、この圏域で唯一の急性期病院で、地域がん診療連携推進病院である。救急医療及び癌診療を含めた外科診療が当院外科の主な役割である。手術症例数は，令和元年度は約 540 例であり、本年度も 500 例に達する見込みである。当院の病床数は、新病院では 284 床となり、より急性期医療に特化している。現在、5 人の外科医で診療にあたっているが、その内訳は、外科学会指導医 1 名、外科学会専門医 3 名である。また、その中には消化器外科学会専門医 2 名、内視鏡外科学会の技術認定医 1 名、乳癌学会専門医 1 名を含む。

予定手術日は週 3 日（月、水、金）で、緊急手術には、随時対応している。手術の内訳は、消化器手術を中心に、乳腺、甲状腺、気胸に対する VATS、肺切除も手掛ける。腹部手術のうち、鏡視下手術の占める割合は 7 割に達し、鼠径ヘルニア、虫垂炎手術、潰瘍穿孔もほぼ全例鏡視下手術で行っている。新病院では鏡視下手術専用の手術室が 2 部屋確保され、より機能が充実し、手術が円滑に運べるようになる。外科の術前検討会は週 2 回、手術室スタッフ、病棟スタッフを含めて行われ、消化器疾患に対しては消化器内科との合同のカンファレンスを毎週行っており、手術症例の十分な術前術後検討を実施している。

また、『日赤』は災害拠点病院として、災害医療に対する訓練・研修を行っている。DMAT の参加も積極的に行っており、若い医師にとって良い経験になる。学会活動も積極的に行える体制にあり、年 2 回公費参加が認められている。さらに、発表すれば必要経費は援助される。

手術症例の多さ、バランスがとれた手術内容、経験豊富な指導医による指導体制により、当院は、若手外科医が研鑽する場として有益と考えられる。外科を目指す若い医師の当院での研修を歓迎し、外科医の少ない島根県西部の外科診療を担って共に働くことを大いに期待する。

13.　益田地域医療センター医師会病院

I.　当院（共同利用施設）は、公益社団法人益田市医師会が運営している開放型病院である。原則、かかりつけ医である医師会会員から紹介された患者の入院・手術・検査等を行い、治療終了後は、かかりつけ医が行う在宅医療で療養を維持する体制をとっている。病院の付属施設としては、無医地区で医療を提供するへき地出張所を 5 施設、介護医療院（44 床）、保健予防センター、臨床検査センター、リハビリテーションセンターを併設している。

II.　病棟構成は、一般病棟（4 階 60 床：内科・外科・整形外科他）、地域包括ケア病棟（3 階 60 床）、特殊疾患病棟（リハ 2 階 48 床）、回復リハ病棟（リハ 3 階 44 床）、療養病棟 2 階（医療保険 44 床）、1 階介護医療院（施設 44 床）となっており、急性期から亜急性期、回復期、慢性期（介護）の患者に対応した病棟構成となっている。

III.　外科の手術件数としては、益田圏域の外科医師の集約化により、26 年以降手術件数は減少し令和元年度は 70 件と減少しているが、地域ニーズを踏まえて一定の外科手術は行いたいと考えている。内訳では鼠径ヘルニアや痔核の手術が多いが、乳腺、結腸、直腸などの切除術も年間数例は行っている。また、悪性腫瘍の術後については会員医師との間で地域連携パスを用いたフォローアップも実施している。

IV.　平成 27 年 10 月に益田地域医療センター南棟を建設し、その中に、在宅医療を支援し、益田市の地域包括ケアシステムを支えるための在宅医療介護連携センターや、訪問看護師等の在宅医療を担う人材を育成や学生の教育のための在宅医療介護研修センターを開設した。

14.　隠岐広域連合立隠岐病院

隠岐病院は病床数一般 91、感染症 2, 精神科 22、計 115 床の小規模病院です。離島の唯一の外科施設であり、地域医療の最前線的外科医療の研修ができます。膵頭十二指腸切除のような非常に難度の高い手術を行うことはできませんが、幅広い疾患の治療を経験できます。2017 年の手術数は 87 例ですが、最も多かったのは胆嚢摘出術 20 例、大腸・直腸癌 10 例、胃癌 4 例、乳癌 3 例、消化管穿孔 4 例、鼡径ヘルニア・大腿ヘルニア 11 例でした。あとは体表の小腫瘤摘出術などです。難度の高い手術を行う場合は、本土から熟練の外科医師に来ていただいて、手術指導を仰いでいます。2017 年の鏡視下手術は胆嚢摘出 18 例、鼡径ヘルニアに対する TAPP1 例、大腸癌手術 1 例でした。救急外来での診療も行うため、外傷や気胸などの初期治療も行います。皮膚科医が常勤ではないため、虫刺され、帯状疱疹などにも対応しています。隠岐の島の売りは旨い魚と旨い酒です。また、毎年 6 月には隠岐の島ウルトラマラソンが行われます。離島で外科修練をしながら、隠岐での生活を楽しんでください。